

CAR No.36

Beyond

スーパーFJ  
アルビレックス・レーシング・チーム  
PRESS RELEASE  
2011/7/10

Albirex-RT

スーパーFJ 鈴鹿シリーズ 第4戦

## NEWタイヤで挑む大類選手

7月8日(金) 練習走行 30分枠×3本走行

新品タイヤを導入し、自身の苦手な西コースを重点視した。まずは走りの基礎に戻り、ヘアピンカーブとシケインでの強いブレーキングを練習した。ブレーキペダルへの強い初期タッチからのリリースが上手くいかず、何度もタイヤロックをしたり、オーバーランしてしまったが、今までよりブレーキングポイントを奥にすることができた。又レースでオーバーテイクするときを想定してラインを変えてのブレーキングも行った。レコードラインを外しても制動する事が分かり、コーナー進入勝負での自信をつけることができた。

次にスプーンカーブに注目した。ボトムスピード、バックストレートの速度を上げるために、進入での向き替えの練習をした。トップの人たちの走りを見ると、進入で大きくリヤをまいたらCP付近でタイヤを縦に転がし、立ち上がりは緩やかなラインで加速していて、タイヤの縦と横の使い方が上手にできていた。自分の場合はリヤをまくことができるが、それを止めることができず、スライド状態になってしまう。結果完壁に同じ走りはできなかった。ラインの正確さ、ブレーキとアクセルの繊細な操作が重要だと気づいた。この日は気温が30℃前後で路面温度は50度を超えて、水温は70度を超え、タイヤはコースを3~4周もすればタレはじめた。消耗が激しく新品の状態から3本走行終了後、中のワイヤーが見えてしまい、使えない状態になった。次の日の予選前の練習走行を計画していたが断念した。ベストタイムは2'18'66秒

7月9日(土) 予選

この日も猛暑で気温は31℃、路面温度は61℃で水温上昇とタイヤマネジメントに気を付けた。

作戦では、まずはアタック2週を計画していた。1周目に2'18秒台に入った。2周目途中で前車につまり、アタックを止めクーリングを開始しピットインしてタイヤの内圧調整をおこなった。

ピットアウト後クーリングしながらコースを1周し、再びアタックを開始した。タイムは2'17'623秒で自己ベストを更新した。続けてアタックを繰り返したが、途中スピンしてしまい、復帰に時間が掛かり予選終了。30台中12位となった。

7月10日(日) 決勝

スタートは他車と変わらない加速で、4位の1台がエンジンストールして11位になるが、1コーナーと2コーナーの混戦で大きく順位を下げてしまった。そしてダンロップコーナーでクラッシュがあり、自分の行き場をなくしてしまい、再び順位を下げてしまった。

SCが入り再スタート。数周して4台との集団戦となった。練習でのブレーキングをいかしてオーバーテイクに成功するが、集団に絡んでいるため、抜いたり抜かれたり繰り返しのなった。ブレーキングではタイヤをロックさせないようにマネジメントにも気を配った。

ファイナルラップまで集団戦になったが、その中でトップチェッカーを受けることができた。

結果11位 完走22台 リタイヤ8台

総評

タイヤは最後までもち、マネジメントはしっかりできました。集団戦の絡みでオーバーテイクやブロックの仕方の勉強になりましたが、前戦よりも順位を下げてしまっただけ悔しい気持ちでいっぱいです。リタイヤの少なかつたらもっと悪い結果になったでしょう。今回で経験、収穫した事をいかして、次戦の結果につなげていきたいです。

中村監督コメント

今回はマシンコントロールが良く特にスプーンでのアタックは感じました。次回はトップより0.5秒差になるよう努力いたします。

 Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計  
埼玉・川口  
<http://www.tknf.com/sds>

P PLUS

Motyl's  
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

SPN  
SPEED PARK NIGATA